

氏名（本籍）	任 大欣（中国）		
学位の種類	博士（経済学）		
学位記番号	甲第 50 号		
学位授与年月日	平成 28 年 5 月 31 日		
学位授与の要件	久留米大学大学院学則第 14 条第 1 項第 2 号による		
学位論文題目	中国における農村観光の展開		
論文審査委員会	主査	久留米大学経済学部教授	浅見 良露
	副査	久留米大学文学部特任教授	堂前 亮平
	副査	久留米大学経済学部准教授	畠中 昌教

### 論文内容の要旨

本論文は、中国における農村観光の展開と、その地理的位置による特徴を明らかにしたものである。中国における三農問題の解決手段として農村観光が注目されているが、農村観光の展開のしかたは、中国における地理的位置によって異なる。本論文は、地理的位置の違いによる農村観光の展開の過程およびそれに関与する諸要因について、フィールドワーク等によって考察したものである。

本論文は、8つの章で構成されている。

第1章では、まず、本研究の研究背景、先行研究について記述する。中国では、農業、農村、村民に関する三農問題や都市農村格差の拡大などの解決策として、農村観光が導入された。中国の農村観光に関する研究は多く見られるが、農村観光による農村経済の発展、農村開発の側面に集中した単発的な研究が多く、特性の異なる複数の地域について実証的に比較研究を行ったものはほとんど見られない。また、現地調査に基づいた取り組み、地域資源、農民の動きといった諸要素を活用した農村観光の展開についての研究は、あまり見られないとしている。

したがって、本研究は、地理的位置により分類された都市近郊、既成観光地周辺、辺遠地域の3つの地域における農村観光の展開とその地域への影響を実証的に考察し、中国における農村観光の展開とその地理的位置による特徴を明らかにすることを目的としている。

聞き取り調査、アンケート調査及び現地観察などにより得られたデータに基づき、各地域における農村観光の展開の諸要因を考察し、分析を行っている。特に、各地域における農村観光の展開やその特徴、また、中国では、農村観光の展開に重要な役割を果たしている政策、公的な支援、村民の動きなどに注目し、研究を進めている。調査対象地として、都市近郊に位置する山東省青島市西麦窯社区、既成観光地周辺に位置する山東省泰安市岱岳区里峪村、

また、辺遠地域に位置し、発展が遅れておりかつ少数民族地域である貴州省黔東南ミャオ族トン族自治州雷山県郎徳上寨をそれぞれ事例として取り上げている。

第2章は、中国における観光の展開及び課題を全体的に論述している。まず、観光の定義を整理し、「観光」とは「余暇時間のなかで、日常生活圏を離れて行う様々な活動であって、再び住居地に戻る予定であり、かつ、訪問先で報酬の稼得を目的とするものは除く」として捉えられる。次に、観光とかかわる諸要素、観光の分類を絡ませながら、中国の観光を論じている。最後に、近代中国における政治主導の観光の展開過程を論じたうえで、政治主導による観光、持続可能な観光発展、人材育成の面から中国における観光の課題について言及している。近代中国における観光の展開は、政治、あるいは観光政策に深く関与し、展開していることが明らかになっている。

第3章では、中国における三農問題と農村観光の現状及び課題を論述している。農村観光に関する従来の定義を整理したうえで、筆者は「農村観光」を「農村の本来の地理空間で地域住民が主体となって、農村地域の風土、自然環境、農業、景観、文化、民俗などの地域資源を活用し、主に都市部の観光客にサービスを提供し、地域経済の活性化と産業構造の転換を目指す観光形態である」と定義している。また、中国政府は農村観光を三農問題の解決策として導入し、政策的に農村観光を発展させているため、農村観光は盛んに展開しているが、農村観光の基盤である農業の衰退、都市化の進展と農村観光の変容、少数民族地域における不適切な政策指導などの農村観光の展開上の課題が見られることを指摘している。

第4章では、都市近郊型の事例として青島市西麦窯社区を取り上げ、分析している。青島市では、都市化の影響により、農村観光が盛んであり、また、橋やトンネルの建設により、都市住民は「経済開発区」を訪れることができるようになり、経済開発区に新たに農村観光地ができたことを見出している。そして、青島市近郊に位置する西麦窯社区では、好立地を生かした個人の農家による農家レストラン、農家民宿の経営が多く見られ、また、農村観光に関する政策の作成・実施、村民委員会の農家への支援などが、この村の農村観光の展開を促進していることを見出している。

この地域における農村観光の展開は、村民の収入増加に寄与するだけでなく、地域産業の転換にもつながっており、多くの村民の収入源は従来の農業から農村観光とかかわる産業に転換していることを見出している。農村観光から得られた収入は、個人農家の生活改善から地域のインフラ整備に使用することができ、地域を潤すことにつながっていることを明らかにしている。

第5章においては、既成観光地周辺地域型の事例として、山東省里峪村における農村観光の展開を考察している。里峪村は古くから果樹栽培を行っているが、1990年代から村民の動き、都市住民のニーズの変化に加え、世界遺産である泰山風景区の影響により観光農園が始まった。その後、政策と補助金が里峪村における農家楽の展開を促進した。村民委員会は積極的にイベントの開催をはじめとする多種多様な手段で村の農村観光を展開しているほか、外部投資が農家民宿の展開と空き家の賃貸を促進し、農村観光の展開に寄与している。

また、里峪村は周囲の村と広域連携を行い、里峪風景区を設置し、農村観光の展開を拡大させている。村民は農村観光から得られた収入を子供の教育、生活改善、村のインフラ整備に利用できるようになり、三農問題の解決に寄与していると指摘している。

第6章は、辺遠地域型の事例である貴州省郎徳上寨における農村観光の展開を分析している。郎徳上寨は1985年に観光政策により、「少数民族風景区」として開放され、ミャオ族文化を中心とする観光が行われていた。その後、農村観光に関する政策、補助金のもとで、村民による農家楽が見られるようになった。また、郎徳上寨では、少数民族の独特な資源を利用し、ミャオ族社会システムと村民委員会が中心となって工分制を用いた農村観光が展開されたことを明らかにしている。その結果、村民は農村観光から収入を得られ、出稼ぎをせず、ミャオ族の文化と伝統工芸を継承している。村民にとってはアイデンティティの再発見への促進効果があると指摘している。

第7章は、上述の第4～6章の考察である。

本章は、地理的位置により分類された3つの地域における農村観光の展開要因を政策・公的な支援、観光資源、農村観光の担い手、農村観光の経営、観光客に分け、検討している。各地域における農村観光の展開に関する諸要因は異なっているが、共通点もあることを明らかにしている。また、各地域における農村観光の時間的・空間的展開を論じ、その展開過程を説明している。それぞれの地域における農村観光の展開は地理的特徴があることが明らかになったとしている。つまり、都市近郊では好立地を生かした個人の農家が中心となる農家レストランや農家民宿が多く、周辺の都市住民、他地域の観光客向けの農村観光が展開していること、既成観光地周辺地域では、地域資源の活用、政策や補助金に加え、村民委員会が農村観光の展開に重要な役割を果たしていること、辺遠地域では、政策・公的な支援による農村観光を展開している特徴があり、少数民族社会制度（ミャオ族社会システム）が農村観光の展開に大きな役割を果たしていることを明らかにしている。

また、各村における農村観光を時間的・空間的展開に分け、論述している。時間的展開については、村によって異なった経過をたどりながらも、内容的に深化の方向にたどっており、空間的にみても、集落内部空間における観光的利用の深化が見られたとしている。そして、それらの中から導き出された、農村観光の展開による地域への影響と農村観光の展開上の課題を述べ、3つの村における農村観光の展開の相違点と共通点をまとめる。3つの村共に、観光収入の増加がみられ、三農問題の解決につながっていることがわかるが、都市近郊の西表窯社区では就業の変化やインフラ整備が見られる一方、辺遠地区に位置する郎徳上寨では民族的アイデンティティの再発見につながっていることを見出している。

そしてそれらから、中国における農村観光の展開の過程についてモデル化を試みている。政策、公的な支援や村民、村民委員会などの諸要因により、農村観光は次第に展開しており、これらが、地域に様々な影響をもたらしてきており、地域発展にもつながっているが、その様相は、地理的位置によって異なっていることが明らかとなっている。

以上のように、本研究は、地理的位置により分類された3つの地域における農村観光の展

開を、実証的な調査により、農村観光とかわる諸要素を分析し、違った性格を持つ農村観光の展開を明らかにした。また、本研究では、先行研究では解明されていなかった中国における農村観光の展開要因、展開過程および農村観光の展開による地域への影響を明らかにしたのとして、有意義であると言える。また、本研究のように、地域条件の異なる事例を系統的に分析し、まとめたものが現時点ではほとんど見られないため、今後の研究の基礎を打ち立てたものであると著者は評価している。

第 8 章では、本研究の結論として各章での議論をまとめ、今後の研究課題を指摘している。農村観光自体の変化に伴う地域の変化の解明や、日本における農村観光の展開との比較研究などをあげている。

### 論文審査の要旨

申請者任大欣氏の論文「中国における農村観光の展開」は、地理学研究の中では、経済地理学、特に観光地理学の分野に位置づけられる。

本研究の目的は、地理的位置により分類された都市近郊、既成観光地周辺、辺遠地域の 3 つの地域における農村観光の展開とその地域への影響を実証的に考察し、中国における農村観光の展開とその地理的位置による特徴を明らかにすることである。

この研究の背景として、任氏は三農(農業、農村、農民)問題を挙げており、その解決方法としての農村観光に注目している。特に経済的に遅れた地域においては、観光は地域発展の一つの手段として注目されている。観光地理学に関する従来の研究からも、大都市圏が形成され、経済的にも発展した、中心的地域に近い都市近郊から、そこから遠く離れ、経済的にも未発達な辺遠地域に至るといふ、中心一周辺的考え方によって説明されることが多いが、本論文でもそれらの見方に基づいて、都市近郊、既成観光地周辺、辺遠地域の 3 つの地域を設定して、地理的位置による農村観光の展開の仕方の差異を分析している。

本研究の対象地域は中国である。中国は、経済的に発展した沿海部から、経済的に立ち遅れた内陸部に至る、東西の経済的格差の大なることが指摘されているが、本研究でも、中国の中心的地域の中に位置づけられ、都市化が進み、経済的にも発展している大都市の一つである青島市を例として、その近郊地域の事例地域として、青島市嶗山区に位置する西麦窯社区、大都市圏からはある程度離れているが既成観光地である泰山の周辺地域に当たる里峪村、大都市地域から大きく離れ、中国の辺遠地域に位置する、貴州省の南東部の黔東南ミャオ族トン族自治州雷山県にある郎徳上寨の 3 地域を事例地域として選んでいる。

本研究では、第 1 章において、農村観光の意義や従来の研究についてレビューした後、第 2 章及び第 3 章においては、中国における農村観光の展開を論じている。中国においては、他の部門と同様、観光についても、政策の影響が強くなるが、改革開放以降の農村観光政策の展開を、観光政策の展開と関連づけて説明している。

第4章～第6章においては、上記各地域における農村観光の展開とその地域への影響を、現地調査によって明らかにしている。各地域において、まず、地域の概要や観光資源を示し、その地域の農村観光の展開過程を、地域的視点から説明・分析している。さらに、それぞれの地域において、農村観光の展開による地域への影響を現地での聞き取りやアンケートによって調査、分析している。

そして考察段階においては(第7章)、上記第2章～第6章で調査・分析した結果を、農村観光の展開に関わるいくつかの諸要因(政策・公的な支援、観光資源、農村観光の担い手、農村観光の経営、観光客)に基づいて比較・考察し、農村観光の展開の地理的位置による特徴を明らかにしている。また、各地域における農村観光を時間的・空間的展開に分け、論述している。そして、従来の研究では明らかにされてこなかった、地理的位置によって分類された、中国における農村観光の展開要因と具体的な展開過程、さらにその地域的影響を明らかにしている。

本研究の特徴としては、まず、中国の農村観光の展開の地理的位置による差異を明らかにしたこと、特に、地理的位置による、中央・地方政府の観光政策の関与の程度の差異、農村観光の展開の仕方の差異を明らかにしたことである。任氏も第1章で指摘しているように、国家の政策の役割の地域差、観光への取り組み、地域資源、社会システム、農民の動きの地域的差異を現地調査によって明らかにした点に本研究の独創性がある。特に、フィールドでの活動の制約、情報へのアクセスの困難な中国において、現地調査を中心とした詳しい事例研究を行い、通常手に入らない情報を明らかにしている。今後さらなる研究の積み重ねが期待されるところである。

本論文の多くの章は、すでに学会等で発表、さらに、査読論文として投稿、掲載されている。彼の研究は精力的であり、今後もさらなる活躍が期待できる。

## 審査結果の要旨

平成28年(2016年)2月29日(月曜日)午前10時30分から午後1時まで久留米大学御井学舎第2会議室において開催された口頭試問および審査委員会により、任大欣氏の論文が博士(経済学)の学位に値する研究であることを審査委員会は全員一致により確認した。